

多様な背景を持つ こどもたちへの寄り添い 教員が知っておきたい 社会的養護と心の支援

塩谷 隼平（しおや しゅんぺい）

東洋学園大学 人間科学部 教授

臨床心理士・公認心理師

都内の児童養護施設で非常勤の心理職を20年以上継続

本日の内容

- 1 社会的養護とは
- 2 社会的養護のこどもの暮らす場所
- 3 里親の種類
- 4 児童養護施設
- 5 児童虐待の問題
- 6 こどもの心理的背景と対応
- 7 学校にしてもらえるとうれしいこと
- 8 さいごに

社会的養護とは

保護者のない児童や、保護者に監護させることが
適当でない児童（要保護児童）を、公的責任で社
会的に養育し、保護するとともに、養育に大きな
困難を抱える家庭への支援を行うこと

社会的養護のこども
約42000人
(2023年)

日本の18歳以下のこども
約1851万人
(2023年)

約440人に1人
約0.3%

= アメリカ 3.5%
= ドイツ 1.2%
= イギリス 0.6%

社会的養護のこどもの暮らす場所

家庭養護

里親

委託数4844世帯
6080人

ファミリーホーム

446か所
1718人

家庭養護の推進

施設養護

児童養護施設

610か所
23008人

**地域小規模児童養護施設
(グループホーム) の増加**

乳児院

145か所
2351人

母子生活支援施設

215か所
5293人 (3135世帯)

障害児入所施設

以前の知的障害児施設、
盲ろうあ児施設、肢体不
自由児施設、重症心身障
害児施設

児童自立支援施設

58か所
1103人

児童心理治療施設

53か所
1343人

自立援助ホーム

317か所
1061人

里親

児童福祉法に基づき都道府県知事の委託を受け、**要保護児童を自分の家庭に迎え入れて**養育する者

○里親登録の要件

- ① 要保護児童の養育についての理解および熱意並びに児童に対する豊かな愛情を有している
- ② 経済的に困窮していない（親族里親は除く）
- ③ 里親本人または同居人が欠落事由（児童虐待の加害など）に該当していない

養育里親

最も一般的で登録数や委託児童数が多く、
委託児童の**半数以上**を占める
数週間の短期間から数年の長期の委託もある

委託里親数3888世帯 委託児童数4709人

専門里親

被虐待児など支援が必要な子どもを対象
養育経験や専門的な経験が豊富な人などが認められる

委託里親数168世帯 委託児童数204人

養子縁組里親

養子縁組を前提とした里親

委託里親数314世帯 委託児童数348人

親族里親

対象児童の親族であることが要件

委託里親数569世帯 委託児童数819人

数値は2022年度（こども家庭庁のHPから）

保護者のいない児童、虐待されている児童 その他環境上養護を要する児童（原則として2～18歳）を入所させて、これを養護し、あわせて退所した者に対する相談その他の自立のための援助を行うことを目的とする児童福祉施設（児童福祉法第41条）

児童養護施設

施設数と入所人数（2023年）

全国に**610か所**
約2万3千人の入所児童
社会的養護の子どもの**約5割**

児童虐待

入所児童の**71.7%**が**被虐待児**
児童相談所の児童虐待の相談（2022年度は219,170件）のうち、施設入所は**約4%**

入所児童の特徴

自閉スペクトラム障害 **11.9%**
ADHD **13.3%**
知的能力障害 **14.0%**
反応性愛着障害 **7.0%**

親の状況

両親ともいない **3.3%**
両親とも不明 **1.0%**
両親またはどちらがいる **95.4%**
親との交流がない **24.9%**

児童虐待の問題

児童相談所における児童虐待相談対応件数とその推移



令和5年度（2023年度）の虐待種別

性的虐待, 2473

身体的虐待, 51623

心理的虐待, 134948

ネグレクト, 36465

22.9%

59.8%

1.1%

16.2%

こども家庭庁（2023）「令和5年度児童相談所での児童虐待相談対応件数」

逆境的小児期体験 Adverse Childhood Experiences

身体的虐待・心理的虐待・性的虐待・ネグレクト
親の離婚・別居・家庭内暴力（DV）への曝露
家族のアルコール依存・薬物依存
家族の精神疾患・自殺未遂・家族の服役

社会的養護にいるこどもの多くが体験

こどもが抱える問題行動

暴言・暴力	ウソをつく
抑うつ症状	落ち着きがない
盗み	性的逸脱行動
大人をイライラさせる	

こどもたちの困った行動

逆境的な体験の影響

逆境的な環境を生き抜く
ために身に着けた工夫

困っているのはこども本人

いじめの問題行動

はげしく暴れる（すぐキレる） こども

暴力・暴言のはげしい こども

大人をイライラさせる こども

他人のものをとってしまう こども

落ち着きがない・忘れ物の多い こども

誰にでも甘える／誰にも相談しない こども

自信のない こども

心理的 背景

癇癢（かんしゃく）としての暴力・暴言

- 幼児期の正常な行動である「癇癢（かんしゃく）」
- 施設のこどもは発達がゆっくりなことも多く、児童期・思春期になっても、**不安なとき・どうしてよいかわからないとき**に癇癢を起こしてしまう
- それが暴力行動や破壊行動となってしまう

はげしく暴れる（すぐキレる） こども

対応

こどもの安全を最優先・とにかく落ち着かせる

- 対応する人を変える、場所を変える、刺激を変える・深呼吸・・・
- 癇癢をおこしたことで、困り、**傷ついているのはこども本人**
＝「また、やってしまった…」
- **癇癢は「困った」「助けて」のサイン**
＝どんなときに、癇癢を起しやすいかを考え、予防していく

自分の気持ちを言葉で表現できることを助ける

- 気持ちを**言語化**できると落ち着いていく
- そのためには、まず**自分の気持ちを抱えてもらう（考えてもらう）体験が必要**

心理的 背景

支配と服従の人間関係パターンしか知らない

- 暴力によって相手を**支配・コントロール**する人と、暴力によって**服従・コントロールされる**人がいる人間関係しか知らない
- 暴力をふるう親に同一化しないと、自分が服従させられると思い込んでいる
- こどもの暴力や暴言は、かつて自分がされたこと、言われたこと
- **暴力は連鎖していく**

暴力・暴言のはげしい こども

対応

まずは子どもの安全を確保して落ち着かせる

- 対応する人を変える、場所を変える、刺激を変える、深呼吸…など
- 強く叱っても火に油を注ぐだけ
- **解離**（意識がその場にはない心理状態）していると言われたことも覚えていない

暴力や暴言によらない方法を伝える・考える

- なぜ、そのような行動をとるのか理由を確認し、安全な方法を一緒に考える
- **恐怖をつかった指導法は意味がない**。彼らの人間関係に巻き込まれていくだけ
- 教員同士・教員と施設職員・里親が協力する関係が子どもの人間関係のモデルになる

心理的 背景

虐待的人間関係の再現傾向

- 虐待的な人間関係パターンを身につけた子どもは大人から怒りや攻撃性を引き出すような**挑戦的な言動**をとる
- 大人がその関係に巻き込まれると、苛立ちや怒りを感じると、虐待が繰り返されてしまう
- 無意識的に重要な大人を挑発しながら、**本当に安全な大人かを試す**
- 性的虐待を受けたこどもが相手を誘惑するような態度をとることもある

大人をイライラさせる こども

対応

個人で抱え込まずチームで対応

- こどもが本当に信頼したいと思う大人に対して**ためし行動**をする
- 個人で対応していると、巻き込まれてしまう
- ターゲットになった教員を孤立させず、**チームとして支え、協力して対応**することが大切
- 児童養護施設の職員は、業務記録（日誌）に書いて報告・共有することで、冷静さを保つように工夫している

心理的 背景

とにかく足りない！

- 自分がどのくらいの量を得られる（何をする）と満足できるかわからない
= 物欲、食欲の他、心理的な満足も
- **常に「足りない」という感覚**があり、他のこどもがうらやましくなってしまう
- 自分の主体性が低いので、他のこどものしていることをマネしてしまう

他人のものをとってしまう こども

対応

問題行動はしっかりと制限し、 その背景にある心理を考える（教えてもらう）

- 盗みなどの問題行動はしっかりと指導して制限する「ダメなことはダメ！」
- そのうえで、なぜ、そのような行動をとってしまうのか？ その背後にある心理について教えてもらう、一緒に考える
- 「**間違っているのはあなたの行動であり、あなたの存在は悪くない**」
- **共感とは、なんでも許すことではなく、相手の気持ちを想像し受け止めること**
- こどもに役割を与え、褒めることで満足が得られるように工夫する

心理的 背景

もともと**注意欠如多動性障害（ADHD）**の特徴をもつ

- ・ 施設の入所児童には発達障害の特性を抱える子どもが多い
- ・ ADHD（13.3%）・自閉スペクトラム障害（11.9%）・知的障害（14.0%）

虐待的な養育環境のなかで**ADHDのような傾向**をもつ

- ・ 穏やかで落ち着いた日常生活を送った経験がない
- ・ ゴミ屋敷のような家庭環境
- ・ いつ暴力を振るわれるかわからない状態で**警戒心が強くなり、集中力が続かない**

落ち着きがない・忘れ物が多い こども

対応

発達障害の特性をもつこどもへの対応が役立つ

- ・ **虐待の影響か／生来の発達特性か？**どちらだとしても対応はあまり変わらない
- ・ あいまいな指示「しっかりきれいにしよう」だけでは、どうしてよいかわからない
- ・ **視覚情報をともなう具体的な指示**が伝わりやすい
- ・ 落ち着ける（集中できる）環境を整える
- ・ 否定文「～～してはダメ」ではなく、なるべく肯定文「～～しよう」で伝える
- ・ うまくできたら、具体的に褒める（**服薬治療をしている場合も同じ**）

心理的 背景

不安定なアタッチメント（愛着）

- ・ アタッチメントとは、自分が**不安や恐れなどのネガティブな心理状況**に陥ったときに、**特定の人物に接近・接触**することで心的安定を回復する行動システム（Bowlby、1969）
- ・ 「誰でもよい」ではなく「**特定の誰か**」である必要がある
- ・ 成長すると、その人物の存在を想像すること（**内在化**）で、心的安定をえることができるようになる
- ・ こどものときのアタッチメント関係が、その後の**人間関係のガイドライン**となる

誰にでも甘える／誰にも相談しない こども

対応

教員もアタッチメント対象の一人になる

- ・ **アタッチメント対象は複数いたほうがよい**
- ・ こどもがピンチを陥っているときに安定したアタッチメントを築くチャンス
- ・ 「困ったときに助けてもらった」体験が、自分から相談する態度を育てる
- ・ こどもたちが困ったときに、目を閉じてまぶたの裏に映る存在に
- ・ 「先生に怒られるから」ではなく「先生をがっかりさせたくないから」やらないに
- ・ **大人たちのアタッチメントも安定させる**
＝自分が困ったとき、不安なときに相談できる相手がいるか？

心理的 背景

基本的信頼感の欠如

- 乳児期の心理的発達課題（Erikson、1963）である「**基本的信頼の獲得**」ができていない
- **この世界は自分が生きていてよい世界であるという社会への信頼と、その社会で自分は生きていてもよい存在であるという自分への信頼**の両方が欠けている
- 自分の立っている底が急に抜けてしまうような不信感を抱いている
- それまで安定した生活を送っていても、急激に不安定になってしまう
- 「自分はいないこども」と思い込んでいる

自信のない こども

対応

学校が「自分がいてもよい場所」になる

- 児童期・思春期のこどもにとって、学校で適応した生活をおくることは、その後、社会で生きていくための大切な礎となる
- いろいろな場面で「小さなできた！」を積み重ねていく
- 同じような日常（スケジュール）が、当たり前のように繰り返される安心感
- 叱った後にも「明日も学校に来るんだよ。待っているよ」と伝える
- **教師からの期待と信頼がこどもの生きていく勇気になる**

施設職員や里親家庭はこどもを育てるパートナー

施設職員や里親家庭は、こどもの問題行動の背景を理解して対応していることも多い

一般家庭よりも、こどものことを**客観的に**みている

里親さんは「**よい親でなければならない**」という気持ちが強く、こどもの問題行動を自分たちのせいと自責的になっていることも

困ったり、気になることがあれば連絡・相談を

二分の一成人式など、こどもの成育歴にかかわる課題をどうしよう？

→**施設や里親家庭と相談**してください

写真や個人名のWeb上やSNSへの掲載は？

→**こどもの居場所を実親に秘密にしている**ケースもあります

施設の見学也大歓迎

施設と学校の**連絡会**の開催、施設のイベントへの参加、

私が大切に
していること

こどもに教えてもらう姿勢
こどもと一緒に考える姿勢

社会的養護のこどもにとって
安心できる学校
過ごしやすい学級
わかりやすい説明
信頼できる教員

=

多くのこどもにとって
安心できる学校
過ごしやすい学級
わかりやすい説明
信頼できる教員

さいごに

社会的養護のこどもがいることが
自然な（ふつうな）ことに感じられる社会に
みんなで子育てをする社会に